

～すべての児童生徒等の「わかった」「できた」を支えるチェックリスト～

「基本のチェックポイント13」

鳥取県教育委員会事務局西部教育局

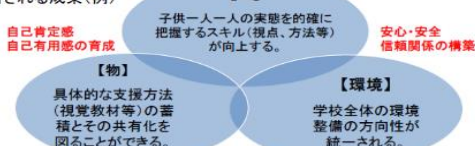
		チェックポイント
【人】 接し方	<input type="checkbox"/>	児童生徒等のよいところや強みをたくさん見つけましょう。 児童生徒等のやる気、指導・支援のヒントにつながります。
	<input type="checkbox"/>	担任が、一番身近な言語モデル、行動モデル、思考モデルになりましょう。 児童生徒等は担任の話す言葉やふるまいを真似ることが大好きです。
	<input type="checkbox"/>	「なぜ」の視点で、児童生徒等の言動の背景を探りましょう。 言動のみを評価せず、その背景（前後の出来事、発達段階、障がいの状態等）に目を向けます。
【物】 指導・支援	<input type="checkbox"/>	具体的な言葉で、一つずつ指示を伝えましょう。 「筆箱をもって、並んで図書室に行きましょう。」 →「今から図書室に行きます。」「筆箱を持ちましょう。」「廊下に出席順に並びましょう。」等
	<input type="checkbox"/>	具体物、写真、文字等で補い、わかりやすい指示や説明に心がけましょう。 例) 学習の流れを写真や絵で提示する。口頭指示を板書で伝える。
	<input type="checkbox"/>	1時間の授業のめあてと流れを明示しましょう。 児童生徒等にわかる言葉で、簡潔に示す配慮が必要です。
	<input type="checkbox"/>	活動の終わりはどこかを具体的に伝え、見通しをもって活動できるようにしましょう。 例) 「〇時〇分にはこの作業を終わります。」 「5枚プリントが終わったら、タブレットで振り返りをします。」等
	<input type="checkbox"/>	予定を提示するなど見通しをもたせ、自主性を高めましょう。 例) 月・週・1日の予定を示す。予定の変更時は口頭のみではなく、板書でも伝える。
	<input type="checkbox"/>	スモールステップの課題を準備し、成功体験を積みませましょう。 「わかった」「できた」を実感させ、学びの確実な定着と意欲の向上を図ります。
【環境】 教室環境	<input type="checkbox"/>	場の構造化を図り、片付けの場所や道具の置き場所をわかりやすく示しましょう。 例) ロッカーの整頓の仕方を写真で示す。
	<input type="checkbox"/>	ルールを明確にし、児童生徒等が自ら行動できるようにしましょう。 例) 学習中の正しい姿勢を写真や絵で示す。 「きくときのルール」「話すときのルール」等を確認できるように掲示する。
	<input type="checkbox"/>	視覚的な刺激(掲示物等)を整理し、集中しやすい環境を整えましょう。 例) 教室前面の掲示物を整理する。不要なものをカーテン等で覆う。
	<input type="checkbox"/>	聴覚的な刺激(教室内外の音等)が集中の妨げとならないよう配慮しましょう。 例) 指導時の声の大きさ、教室内の騒音、隣の教室の音等に配慮する。

特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりの推進

自立と社会参加に向けて、全ての子供の持てる力を最大限まで高めるための個別最適な学びと、協働的な学びの実現

全ての子供が「わかった」「できた」と実感できる授業⇒学力の確実な定着

授業改善推進校において期待される成果(例)



文部科学省調査結果 令和4年12月
知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示すものとされた児童生徒の割合 約6.6%

小・中学校学習指導要領解説 平成29年
学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的、計画的に行うこと。

◇児童生徒等の実態に応じて配慮の有無や程度は変わります。

◇上記のチェックポイントを意識しながら、各教科等の指導や日頃の関わりに留意しましょう。

◇児童生徒等によっては、障がい特性等に応じた配慮が必要です。また、複数の障がい等を併せ有している場合もあるため、主たる障がいだけでなく、併せ有する障がい等への配慮にも心がけましょう。

【参考資料】

まなびの支援ガイドブック 米子市教育委員会 平成22年12月
特別支援教育の手引 鳥取県教育委員会 令和4年3月改訂